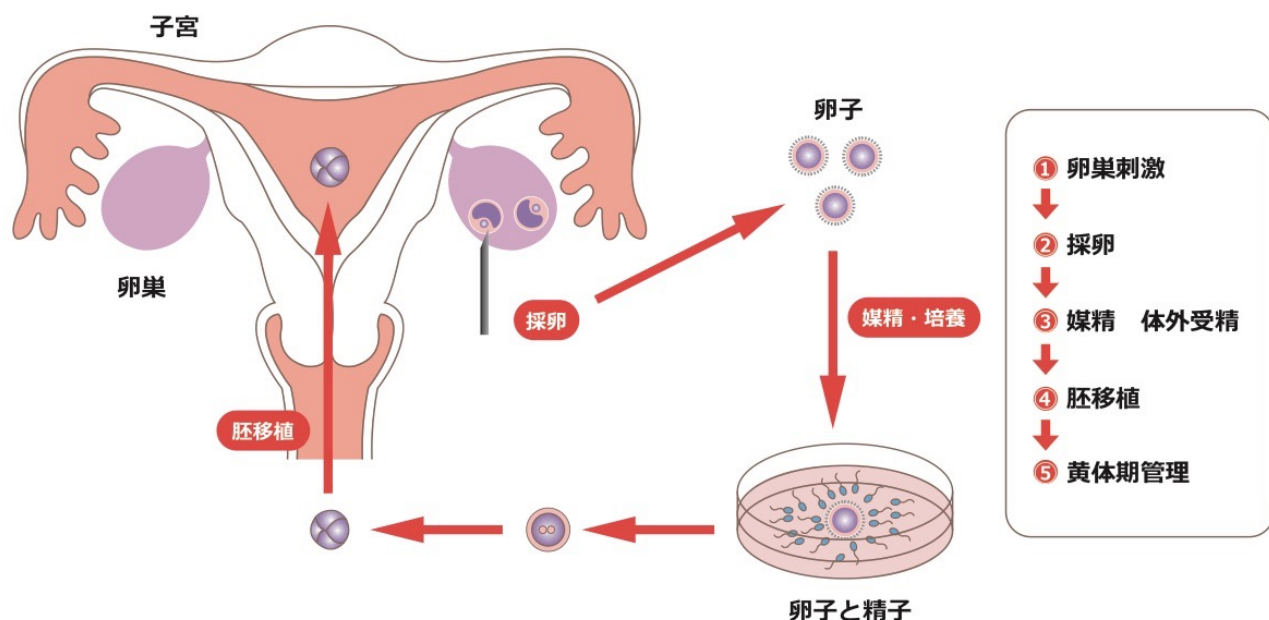


体外受精（IVF）

体外受精（IVF=In Vitro Fertilization）は、卵子と精子のお見合いの場（受精）を卵管内から体外に移して、体外にて自然に受精した胚（受精卵）をお母さんの子宮内に戻し、無事に着床することを期待する治療法です。



体外受精は、卵管がつまっている方、手術等で卵管がない方はもちろん、夫の精子の少ない方、何年も不妊治療をしても妊娠しない難治性不妊症の方が対象となり、卵が発育し排卵をしていれば、特に女性の年齢制限はありません。

（*ただし、年齢が上がるにつれて妊娠率はどうしても下がる傾向にあります）

又、体外受精は採卵をして卵を観察し、受精-成長の確認を行いますので、卵の質・精子の受精能力や受精卵の質が判ります。

例えば、良い受精卵を戻し妊娠すれば、それまで妊娠しなかった原因は卵管の問題だったということになります。

残念ながら妊娠に至らなければ着床の問題ということになります。

こうして体外受精を行う事で今までわからなかった不妊の原因がはっきり判ります

体外受精を安全に行うために

当院では患者様の体調に合わせた治療を行っておりますが、以下のような副作用があった場合は治療を安全に行うために体外受精を中止させて頂くこともございます。

* 体外受精の治療の前に医師、スタッフより治療についての説明をさせていただいております。詳しい説明はその際に行わせていただきます。

薬の副作用について

体外受精・胚移植では排卵誘発剤、黄体ホルモン、採卵の際の静脈麻酔薬、抗生物質など複数の薬剤を使用します。

いずれも安全性の高い薬剤ですが、稀に薬の副作用が生じる場合があります。

薬の副作用には卵巣刺激症候群、薬疹、肝・腎臓機能障害、注射部位の疼痛や腫脹などがあります。

極めて稀ですが重症型のアレルギーであるアナフィラキシーショックなどにより重篤な状態となることもあります。

採卵の合併症

採卵は超音波下に卵巣を穿刺して行いますが、卵巣の位置や癒着の状態などにより、稀に腹腔内出血や腸管損傷などが起こる場合があります。

出血が多い場合は腸管損傷により腹膜炎が発症した場合などには開腹術が必要となる可能性があります。

開腹手術が必要となる頻度は非常にまれですが、当院でも10年に1回程度は起こりうると思え、常に緊急事態に対応できるようにしております。

卵巣過剰刺激症候群について

排卵誘発剤の投与により卵巣内で成熟卵胞が多数発育したために、卵巣が腫大して下腹部痛が出現することがあります。

多くの場合、下腹部痛や下腹部膨満感は採卵日から1週間の間に出現します。

最重症例では腹水や胸水の貯留による呼吸困難や腎不全、脳梗塞などの血栓塞栓症を引き起こすこともあるため、重症化する可能性がある場合には入院治療が必要となります。

普段はお仕事のご都合も考慮に入れて治療スケジュールの相談に乗らせて頂いておりますが、副作用が進行しそうな場合は、お仕事を休んで頂く場合もございます。体外受精の排卵誘発が始まりましたら、いつ急に休みになっても良いように、あらかじめご準備をお願いします。

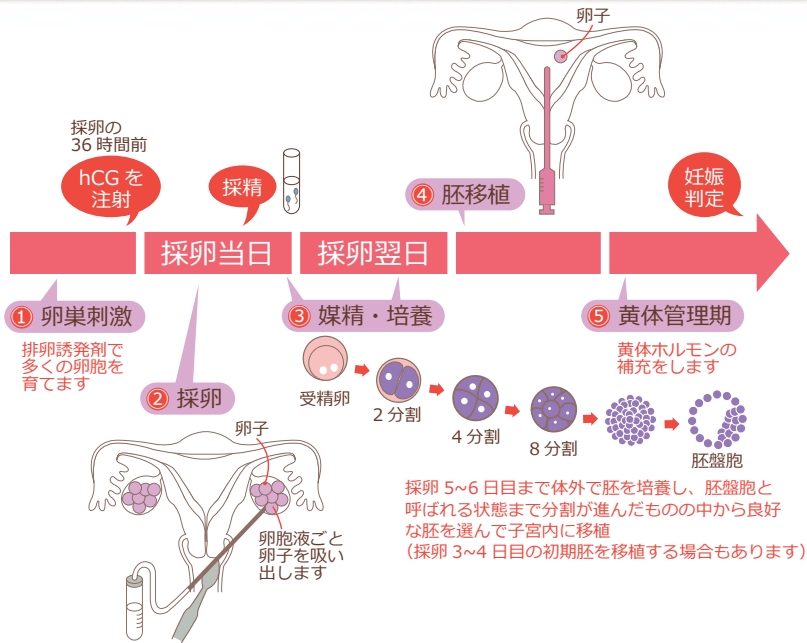
体外受精の安全性について不安がある患者様へ

▶ 当院は患者様にご納得頂く治療を受けていただくために、治療の段階ごとに説明をさせていただいております。

その他、体外受精について何か不安なことがございましたら、お気軽に医師、スタッフにお尋ねください。



体外受精(IVF)の流れ



1. よい卵をたくさん育てます (卵巣刺激)

排卵誘発剤を使ってたくさんの卵胞を育てます。

卵子をとる(採卵)前に自然に排卵してしまうことがないように、エコーを使用して注意深く卵子の成長を見守ります。

採卵の36時間前にhCGを注射して、卵子の最終的な成熟をうながします。

2. 卵子を体外にとり出します (採卵)

麻酔をかけ、長い注射針を膣の壁から卵巣内の卵胞に刺し入れて、卵胞液ごと成熟した卵子を吸引します。

3. 卵子と精子と一緒に (媒精)

採精された精液を洗浄・濃縮して元気な精子を選び、卵子の入ったシャーレ(小さいお皿)に加え、自然な受精を待ちます。

4. 胚(受精卵)を育てます (胚培養)

採卵の翌日に受精したかどうかを確認した後、さらに胚の培養を続けます。

5. 胚(受精卵)をお母さんの子宮の中へ (ET/胚移植)

4~8細胞期胚(初期胚/採卵2、3日後)もしくは胚盤胞(着床時期の胚/採卵5、6日後)まで育てた胚の中から、最もグレードのよいものを1個(※)選び、カテーテルを使って子宮内にそっと戻して、着床してくれることを期待します。

(※)2個以上の移植は双子妊娠のリスクがあるので当院では1個移植を推奨しております。

6. 妊娠しやすい環境に (黄体補充)

移植した胚が着床しやすいように、黄体ホルモンを投与するなどし、黄体機能をアシストします。

7. 無事、着床してくれたでしょうか (妊娠判定)

胚移植から約2週間後、妊娠したかどうかを判定します。胚が着床していれば、絨毛(のちに胎盤になる組織)からhCGという成分が分泌されます。

おしっこの中からhCGが検出されれば、それは赤ちゃんからの「ここにいるよ」のサインなのです。

🌸 今すぐ、IVFを受けたいのですが？

- ▶ 当院では患者様の問診、不妊検査をした後、生理周期とホルモンバランスを確認して、IVFの時期を決定します。

IVFを受ける前にはお身体のホルモンバランスを整えるために1か月ピルを飲んでいただきます。

(IVFに向けてピルによって排卵を止めて、卵子のストックを得るため)



🌸 近々、旅行や出張の予定があるのですが、IVFを受けることができますか？

- ▶ IVFは時期をずらすことが可能ですので、病院に来れないような予定が予め分かっている際は、事前にご相談ください。

